

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	鹿児島県指定 第4670102724号
法人名	有限会社 コーボー
事業所名	グループホーム コーボー
訪問調査日	平成 21 年 11 月 4 日
評価確定日	平成 21 年 12 月 5 日
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月24日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第 4670102724号		
法人名	有限会社 コーボー		
事業所名	グループホーム コーボー		
所在地	鹿児島市西陵5丁目12番3号 (電話) 099-283-6723		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年11月4日	評価確定日	平成21年12月5日

【情報提供票より】 (平成21年 9月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 4月 30日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	28 人	常勤 14人, 非常勤 14人,	常勤換算 22.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	3 階建ての 1~3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	600 円
敷金	有 (円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (9月 1日現在)

利用者人数	27 名	男性 4 名	女性 23 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名
要介護3	5 名	要介護4	4 名
要介護5	5 名	要支援2	1 名
年齢	平均 86 歳	最低 73 歳	最高 95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院 西歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの前にはバス停があり、周辺にはスーパーや公園、学校もあり利便性の良い環境に建てられたホームである。駐車場での日向ぼっこや園芸作業時に近所の方に声をかけてもらう等、地域とのふれ合いの中で生活しやすい環境となっている。医療法人を母体としているため、協力医療機関との連携も確立されている。歯科医の協力をもらいながら口腔ケア、嚥下体操を重視し、誤嚥防止のための食事時の姿勢の工夫も行っている。また、日々のレクリエーションには歌いながら踊るワハハ体操を行ったり、他施設との交流も取り入れながら入居者に生活を楽しくしてもらえるように、チームワークで取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	重度化や終末期の対応の指針を明文化については、「重度化した場合の看取りの指針」を作成し、家族にも説明し、職員も共有化を図り、改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	各ユニット毎に、全職員で自己評価を実施し、自己のケアの振り返りを行い、ケアの質の向上を目指している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回会議を開催し、入居者の状況や活動内容報告、外部評価の結果報告等行っている。毎回、認知症や口腔ケア等、勉強会を取り入れる事で家族の方にも理解を深めてもらいながら、サービスの向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族の面会時、毎月1回は相談や苦情がないか声かけを行っている。家族会、運営推進会議の中でも家族からの要望や意見を出してもらうよう働きかけている。出された意見は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	自治会に加入し、地域の文化祭に入居者の作品を出展して参加したり、校区運動会、バザーに参加するなど交流を図っている。また、小中学生の職場体験学習の受け入れを行ったり、地域のボランティアの方の訪問も多く、地域との交流を積極的に行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時からの理念に加えて「地域の中で、あなたの暮らしをより豊かなものになるように築いていきます」という地域密着型サービスを含めた独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に理念の唱和を行い、共有に努めている。ごく当たり前の事が当たり前に行けるよう創意工夫しながら、理念の実践に向けてケアの統一ができるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の文化祭に入居者の作品を出展し、一緒に参加したり、校区の運動会、バザーに参加し交流を図っている。また、小中学生の職場体験学習の受け入れを行ったり、地域のボランティアの方の訪問も多く、地域との交流を積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	各ユニット毎に全職員で自己評価を実施し、自己のケアの振り返りを行い、ケアの質の向上を目指している。外部評価の改善項目についても、検討改善が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催し、入居者の状況や活動内容報告、外部評価の結果報告等行っている。毎回、認知症や口腔ケア等勉強会を行う事で、家族の方にも理解を深めてもらいながらサービスの向上に活かすよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市及び地域包括支援センターの担当者と、入居者の状況について情報交換や相談を行いながら、連携を図っている。 市の介護相談員も受け入れ、入居者のサービスの質の向上に向けた取り組みがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ホーム便りを発行し、入居者の暮らしぶりや近況報告をしている。金銭出納帳は、毎月面会時に家族に報告しサインももらっている。面会時には、介護支援記録を家族に見せて健康状態も報告している。職員の異動についても家族に説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時、毎月1回は相談や苦情がないか声かけを行っている。家族会、運営推進会議の中でも、家族からの要望や意見を出してもらうよう働きかけている。出された意見は話し合いを持ち、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視したケアを行っている。やむを得ず異動があった場合は、入居者や家族に紹介して、信頼関係が築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は交代で参加し、伝達講習も行っている。内部研修では年間研修計画を作成し、新人研修の実施の他、自主研修でも口腔ケア、排泄感染予防、食事の姿勢等、全員で知識と技術の向上に向け取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市のグループホーム連絡協議会に加入し、研修での交流を図っている。また、他グループホームの行事に入居者と出かけたり、職員が踊りなど出し物をしながら相互訪問をする等、交流が活発に行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時には、本人や家族と話し合いをもち、自宅や施設に出向き親睦を深めながら馴染みの関係を作り、安心して入居できるよう支援している。入居前には本人に来所し、見学してもらい場の雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、一緒に料理を作ったり、テレビ、新聞で身近な話題を取り上げたり、若い頃や昔話を聞く事で生活の技や知恵を教わる等、日々の生活の中で支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や、日々の生活の中でどのように生活したいのかを聞いたり、表情や言動から察しながら職員間で情報交換し、本人の意向を重視した支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人家族の要望を聞いたり、職員の意見を参考に関係者と話し合いを持ち、個別に応じた具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は毎月モニタリングを行い、評価修正している。定期的な見直しは6ヶ月に1回行っている。状態変化時は随時見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合いながら本人の意向に添った通院の支援をしたり、外出の送迎を行うなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応については、「重度化した場合の看取りの指針」同意書も作成されている。「食事摂取が出来なくなる迄はホームで」という方針を家族にも説明し理解を得ている。ホームで看取ってほしいとの家族の強い希望で看取ったケースもある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は個人情報の保護に関する説明を行い、入職時に誓約書ももらっている。日々のケアの中で、自尊心を大切に声かけや対応の仕方を職員に指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望に合わせて、養命酒、梅酒、焼酎の晩酌を8年間続けている方や、起床、食事、入浴の時間をずらしたりと本人のペースに合わせた柔軟な対応支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園で野菜を一緒に収穫したり、野菜の下ごしらえ、味見をしてもらったり、配膳、片付けなど出来る事を一緒に行っている。難聴で拒食のある方に、紙芝居で3食食べる必要性を問いかけ、1年半かけ普通の食事が出来る迄援助する等、個別に応じた支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間、回数などは本人の健康状態や希望に合わせる工夫をし、温泉浴を楽しめるよう配慮している。拒否の強い方には無理強いせず対応を工夫しながら、週3回は入浴できるよう支援している、		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	梅ちぎりから梅干し漬け、ラッキョウ漬け、ジャム作り、行事料理や毎日の調理に力を活かしてもらったり、歌や折り紙、花札を楽しんだりしている。また、ピアノコンサートへの外出や毎月1回のメイキャップ教室、希望者には有料のフットケアも好評となっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園に散歩に出かけたり、スーパーへの買い物、駐車場での日向ぼっこをしながら近所の人と会話したり、花見やドライブ、外出に出かける等、戸外に出かけられるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りと気配りを重視し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	手作りの防災頭巾とヘルメットも用意されている。夜間想定も含めた防災訓練には、消防分遣隊や近隣住民、関連施設にも協力をもらいながら年2回行っている。地域の防災訓練にも参加し、災害時の備蓄も用意されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況が毎日記録されている。高齢者の食事についても勉強会を行っている。法人の栄養士に専門的アドバイスをもらいながら、栄養バランスにも配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花が飾られ、壁にはパッチワークのタペストリー、油絵が飾られ、入居者手作りの陶芸の置物が展示されている。共有空間にはタタミスペースがあり、暖かい場所に移動できるよう工夫されている。ソファも用意されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には時計、テレビ、ソファ、椅子、テーブル、仏壇、花のリース、写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。